

保育学科

幼稚園教諭二種免許状

授業科目名	（保育内容）健康	サブタイトル		授業番号	EE203
担当教員名	土`田 豊				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		

【授業の概要】

乳幼児期の発育発達の過程や個人差に合わせた支援の必要性や，現代社会における子どものからだと心の育ちに関する問題点について学習し，乳幼児期における身体活動の重要性について理解する。

【到達目標】

現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し，その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践できるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：領域「健康」とは

子どものからだと心の現状について様々なデータを見ながら，客観的かつ具体的に把握する。

第2回：「幼児期における運動遊びの必要性」

なぜ，幼児期に体を動かすことが必要なのかについて理論的に理解する。

第3回：「運動遊びと健康（1）」

集団遊びいろいろなジャンケン遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。

第4回：「運動遊びと健康（2）」

身近にある材料である風船や新聞紙を使った遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。

第5回：「運動遊びと健康（3）」

サーキット遊びを通して，子どもたちが様々な動きを獲得できる環境について理解する。

第6回：「運動遊びと健康（4）」

リバーシーゲームの体験を通して，楽しく体を動かすことの大切さを理解する。

第7回：「運動遊びと健康（5）」

ボールを使ったサーキット遊びを通して，物を操作する動きを獲得できる環境について理解する。

第8回：「運動遊びと健康（6）」

伝承遊びの体験を通して，伝承遊びで高められる力について理解する。

第9回：「運動遊びと健康（7）」

いろいろな玉入れ遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。

第10回：「運動遊びと健康（8）」

いろいろな陣取り遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。

第11回：「運動遊びと健康（9）」

大型かるたとり遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。

第12回：「模擬保育 運動会の計画と準備」

保育の現場で行われる運動会をイメージしながら種目や内容，役割分担等について計画する。

第13回：「模擬保育 運動会(1)」

自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。

第14回：「模擬保育 運動会(2)」

自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。

第15回：「家庭との連携・まとめ」

運動遊びの必要性について園での取り組みに加え，家庭との連携の仕方について考える。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。望ましい服装で授業に取り組めていない場合は、減点対象とする。一方、授業中の発表やグループ内での発表状況等、積極的な言動が確認できた場合は、加点对象とする。
	レポート	30%	授業で体験したことを踏まえ、実際の保育場면을想像しながら述べていること。保育現場で、子どもたちと運動遊びを展開していることが想起できる場合、内容に応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで学習のフィードバックとする。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	領域「健康」のねらいや幼児期運動指針に示されている内容を考慮して、模擬保育を実施し、その理解度や保育への展開具合を得点化する。
	自由記載		

【受講の心得】

- ・運動着を着用する
- ・室内用シューズを履く
- ・貴重品は自己管理する
- ・装飾品は身につけない（髪は結わえる）
- ・全員協力の上、準備・片付けをする
- ・日常生活においても課題を見つけ積極的に取り組む

【授業外学修】

- ・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり、新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。
 - ・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して、保育現場で行われている運動遊びについて、対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。
 - ・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め、指導案として反映できるようにすること。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼児期運動指針ガイドブック		文部科学省	サン・ライフ企画	1300	978-4-904011-47-8
	自由記載					
参考書	自由記載					

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立小学校教諭

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

学校現場での経験を生かして、幼児期に体を動かす子との大切さや方法などについて指導する。

授業科目名	(保育内容) 人間関係	サブタイトル		授業番号	EE204
担当教員名	福澤 惇也				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】 幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。					
【到達目標】 幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：現代社会と幼児の人間関係 第2回：家庭や地域の人間関係 第3回：3歳未満児における人間関係の発達（１） 第4回：3歳未満児における人間関係の発達（２） 第5回：幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち 第6回：幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ち 第7回：乳幼児期の自立心の育ち（１） 第8回：乳幼児期の自立心の育ち（２） 第9回：幼児期の協同性の育ち（１） 第10回：幼児期の協同性の育ち（２） 第11回：幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（１） 第12回：幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（２） 第13回：乳幼児期の人間関係のひろがり 第14回：乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり 第15回：幼児期に育みたい資質・能力と人間関係					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度				
	レポート	10%	講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、次回の講義冒頭で解説を加える。		
	小テスト				
	定期試験	90%	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。		
	その他				
	自由記載				

【受講の心得】						
テキストや配付資料についてはよく読み、内容を把握し、授業で学んだことを整理しておくこと。						
講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。						
「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。						
【授業外学修】						
テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。						
講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。						
課題発表の資料を準備すること。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	資質・能力を育む 保育内容 領域 人間関係－こどもにとっての人間関係とは－		齊藤崇ほか	教育情報出版	2, 000	978-4-909378-51-4
	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）				
【担当教員の実務経験の有無】						
有						
【担当教員の実務経験】						
幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						
【実務経験をいかした教育内容】						
幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。						

授業科目名	（保育内容）環境	サブタイトル		授業番号	EE205
担当教員名	清水 憲志				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		

【授業の概要】

子どもの発達を環境とかかわる力の側面から学ぶ。実践例，ビデオ視聴，保育現場の観察，遊び等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり，それを生活に取り入れていこうとする力を養うための保育の展開について学び，指導力・実践力を身につけることを目指す。

【到達目標】

子どもと環境とのかかわりや子どもの育ちを理解し，具体的な保育の環境のあり方とその考え方，教師の援助のあり方について学ぶことで，環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。

なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育と環境

…保育における環境をの意味を理解しよう。

第2回：領域「環境」の捉え方と考え方

…領域「環境」について考えてみよう。

第3回：保育環境の構成

…環境を構成する理由を知ろう。

第4回：人的環境について

…人的環境の意味を知ろう。

第5回：豊かな生活を育む環境をデザインする

…様々な環境（自然）を知ろう。

第6回：泥団子を作ろう

…泥団子を作って楽しもう。

第7回：泥団子を極めよう

…泥団子の理論を理解して，実践してみよう。

第8回：ごっこ遊びについて

…ごっこ遊びの重要性を知ろう。

第9回：遊びにかかわる指導を考えよう

…指導案を立案して保育の実践をイメージしよう。

第10回：生き物や植物，自然の事象に関心を持つ食育，栽培活動について

…食育及び栽培計画を作成しよう。

第11回：作品展について

…子どもの色々な作品を見て，感性を磨こう。

第12回：フォトブック鑑賞会

…それぞれが作ったフォトブックを見ながら，感性を高めよう

第13回：砂・水遊びの指導を考えよう(1)理論編

…砂・水遊びの意味を知り，計画してみよう。

第14回：砂・水遊びの指導を考えよう(2)実践編

…それぞれに指導案から実践してみよう。

第15回：子どもを守る安全な環境について

…保育における安全な環境について考えよう。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他	30%	フォトブックの作成（自然物）
	自由記載	フォトブックについて ・写真10枚以上（10種類以上）（1点） ・表紙にタイトルをつける（1点） ・裏表紙に学籍番号・名前を書く（1点） ・本形式であること（閉じ紐，リング，ファイル，リボン，ノートetc）（1点） ・大きさ15cm×18cm以上（1点） ◎ポイント ・子どもがみてわかりやすいこと（10点） ・統一感を持って作成してあること（5点） ・自分なりの工夫がされていること（10点） ※採点后，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。	
【受講の心得】 日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。			
【授業外学修】 1. 復習として，ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。			
使用テキスト	自由記載	適宜レジュメを配布します。	
参考書	自由記載	保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 （平成30年3月 内閣府，文部科学省，厚生労働省）	
【担当教員の実務経験の有無】 有			
【担当教員の実務経験】 公立保育園保育士，附属幼稚園教諭			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無			
【実務経験をいかした教育内容】 子どもの育ちを豊かにする環境について，実務経験を生かして，実践事例を取り入れ，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と結びつけ，指導の大切さを学ぶとともに，学生自身が実体験することで感動体験を味わい，保育者としての資質が向上できるような援助する。			

授業科目名	(保育内容) 言葉	サブタイトル		授業番号	EE206
担当教員名	山本 房子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		

【授業の概要】

保育内容における領域「言葉」について理解するとともに、子どもの発達に関する知識や言葉を育てる児童文化財を実際に体験することを通して、子どもの言葉の獲得に必要な保育者のかかわりについて学ぶ。

【到達目標】

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における、ねらい・内容・留意事項を理解できる。
- ・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。
- ・絵本、ペープサートなどの児童文化財の実践を行うことができる。
- ・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：言葉の意義と主な機能（コミュニケーション・思考・行動調整）について理解する
- 第2回：言葉を獲得するために必要な基礎について理解する
- 第3回：前言語期における身近な大人の関わりの重要性及び乳児の言葉の特徴と発達について理解する
- 第4回：幼児の言葉の特徴と発達について理解する
- 第5回：領域「言葉」のねらいと内容について理解する
- 第6回：子どもの言葉を豊かにする児童文化財（絵本・紙芝居）の特性、保育における意義や役割を理解する
- 第7回：絵本の読み聞かせをする（模擬保育をする）
- 第8回：子どもの言葉を豊かにする児童文化財（エブロンシアター、パネルシアターなど）を体験する
- 第9回：言葉そのものの面白さや言葉に対する感覚について考える
- 第10回：保育で用いるペープサートを作る 1
- 第11回：保育で用いるペープサートを作る 2
- 第12回：ペープサートを演じる（模擬保育をする）
- 第13回：子どもの言葉を育む保育の実践について映像資料から考える
- 第14回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝え合い」の視点から小学校との接続について考える
- 第15回：特別支援、多文化共生の視点から言葉の発達に関わる諸問題について考える

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業における発表や参加態度、事前事後学習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	50%	到達目標に関する基本的な知識や技術についての試験行い、理解度を評価する。
	その他	20%	絵本の読み聞かせに必要な技術や知識に気付けたかどうかを評価する。（10%）ペープサートを作成し演じる。保育現場での実践を想定し、子どもの発達段階や興味関心、子どもの見え方等を意識して作成、演じることができたかどうかを評価する。（10%）
	自由記載		

【受講の心得】

積極的な態度で授業に臨むこと。
発表等の活動には主体的に参加すること。

【授業外学修】

- 1 予習として教科書の授業にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。
- 2 復習としてノートの記事や資料の整理をする。
- 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。

以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	デザインする保育内容指導法「言葉」		田中 謙 編著	教育情報出版	2000円＋税	978-4-909378-09-5
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		文部科学省 厚生労働省 内閣府	チャイルド本社	500円＋税	978-4805402580
	自由記載					

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立幼稚園教諭

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が，事例や実践をもとに，領域「言葉」における保育内容等について演習授業を行う。

授業科目名	(保育内容) 表現	サブタイトル		授業番号	EE207
担当教員名	大山 佐知子 鳥越 亜矢				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】 こどもの成長過程における多様な表現に関して、幅広く表現の意義とその必要性を理解する。幼児期の発達特性をふまえながら、創造性豊かに楽しく表現し、創作体験を重ねることにより、豊かな感性を磨くとともに創造性を高め、指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。					
【到達目標】 思いつくままに感じたことを色や形で表現することができること、制作物を使った表現ができること、また、音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい、幼児の発達特性に合わせた指導ができるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】 1 回～4 回 音やリズムを表現する 1～4 5 回～8 回 大小、様々な製作物の表現 1～4 9 回～1 2 回 ブラックライトを使った音・光・形の競演 1～4 1 3 回～1 5 回 オノマトペの表現 1～3 授業の効率をあげるためにグループに分かれて行なう。					
第1回：音やリズムを表現する 1 タップリン制作		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第2回：音やリズムを表現する 2 音楽に合わせたリズム創作		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第3回：音やリズムを表現する 3 タップリンを使った音楽発表の練習		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第4回：音やリズムを表現する 4 発表		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第5回：大小、様々な製作物の表現 1 物語の背景より場面の製作部分を考える		※（担当鳥越 亜矢 大山佐知子）			
第6回：大小、様々な製作物の表現 2 物語の背景より場面の製作をする		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第7回：大小、様々な製作物の表現 3 物語の背景より場面の表現方法に効果音・音楽も加えて考える		※（担当鳥越 亜矢 大山佐知子）			
第8回：大小、様々な製作物の表現 4 物語の場面製作の発表		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第9回：ブラックライトを使った音・光・形の競演 1 光る材料探し、絵コンテ作成		※（担当鳥越 亜矢 大山佐知子）			
第10回：ブラックライトを使った音・光・形の競演 2 制作と練習		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第11回：ブラックライトを使った音・光・形の競演 3 中間発表と修正		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第12回：ブラックライトを使った音・光・形の競演 4 発表		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第13回：オノマトペの表現 1 保育の一日オノマトペ		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第14回：オノマトペの表現 2 オノマトペの遊び制作		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			
第15回：オノマトペの表現 3 発表		※（担当大山佐知子 鳥越 亜矢）			

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業中の活動や発言について、以下の観点に基づき評価する。(1)課題について真摯に向き合い、深く考えた意見を発表、または提出プリントに記述できる。(2)グループ活動のリーダーになった場合の務めを果たし目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。(3)グループ活動でメンバー同士として積極的に意見交換ができ、グループ内で協力して目標に向かう姿勢が見られる。
	レポート	0%	
	小テスト	20%	グループ活動の発表の中で主に次の観点で評価する。(1)実技発表の内容における創造性。(2)実技発表及び成果物としての完成度。(3)目標到達に対して最後まで改善する意欲や、向上心を持って取り組んでいるか。
	定期試験	0%	
	その他	20%	以下の姿勢を評価する。個性、感性を尊重し合い、情報交換のコミュニケーション力を発揮することができる。各課題の準備や処理に対しても責任ある行動ができる。他者の発表に対して興味、関心を持ち、多くの気づきを共有する発言、行動ができる。
	自由記載		授業の流れの中でも終始受け身の姿勢に留まらず、個人として、率先して、意見や発表を行う姿勢を示すことも大切な評価とする。また、実技発表においては、準備段階からの全体の流れを振り返り、評価をフィードバックする。
【受講の心得】 〔造形表現〕主体的・創造的な姿勢で、課題に対して意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。 使用した道具・用具の片付け、清掃をきちんとすること。 〔音楽表現〕発表の場に対し積極的に取り組み、音楽の感性を広げていく姿勢を持って臨むこと。			
【授業外学修】 授業で学んだ成果を元に、週当たり2時間～4時間予習復習すること。 予習として授業内容に関連する情報収集を行い、他者に還元する姿勢を持ち、復習としては授業内容の取組を反省し深める姿勢を持つこと。			
使用テキスト	自由記載	必要に応じてプリントを配布する。	
参考書	自由記載		
【担当教員の実務経験の有無】 無			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無			

授業科目名	保育内容総論	サブタイトル		授業番号	EE202
担当教員名	福澤 惇也				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】 アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また，保育構想→具体的な指導案→模擬保育→振り返り→指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。					
【到達目標】 幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている，園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。 教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。 以上のことを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。 第2回：子どもの遊びを分析して，どのような経験しているのかを話し合う。 第3回：教育・保育における環境を通した実践について学ぶ。 第4回：環境構成を分析して，物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。 第5回：要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。 第6回：子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。 第7回：支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。 第8回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。 第9回：活動を分析し，保育の多様な展開について具体的に学ぶ。 第10回：教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。 第11回：教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。 第12回：運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。 第13回：「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。 第14回：模擬保育を目指して指導案を作成する。 第15回：模擬保育をグループで実施する。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。		
	レポート	10%	講義の最後に与えられた課題について，様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については，次回の講義冒頭で解説を加える。		
	小テスト				
	定期試験	80%	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 テキストをよく読み，内容の把握に努めること。講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。 グループワークを中心とするので，積極的態度で受講すること。 講義を通して，少しずつ自らが描く保育者像の輪郭が鮮明になるよう思考を巡らせること。					

【授業外学修】						
テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。						
講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。						
課題発表の資料を準備すること。						
1週間あたり5時間を目安とする。						
使用テキスト	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 (平成29年6月 チャイルド社) 幼稚園教育要領解説 (平成30年3月 文部科学省)				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新・保育内容総論－保育って，おもしろい－		前田和代	教育情報出版	1, 800円	978-4-909378-50-7
	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
有						
【担当教員の実務経験】						
幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						
【実務経験をいかした教育内容】						
幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。						

授業科目名	健康の指導法	サブタイトル		授業番号	EE215
担当教員名	土`田 豊				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 幼児の心身の健康と安全，遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め，グループワークなどで意見交換を積極的に行う。					
【到達目標】 幼児の発達や学びの過程を理解し，日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の発達や学びの過程を理解し，生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の発達や学びの過程を理解し，発達を促し安全に配慮した遊びの指導法正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の興味を引き出し指導の効果をより高くするため，様々なツールを用いた指導法を計画できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：食事・食育に関する指導法について学ぶ。 第2回：着脱に関する指導法について学ぶ。 第3回：清潔に関する指導法について学ぶ。 第4回：排泄・睡眠に関する指導法について考え，指導案を作成する。 第5回：排泄・睡眠に関する指導法について，模擬保育を実践し意見交換する。 第6回：生活面の安全に関する指導法について学ぶ。（ICTを活用する） 第7回：交通面の安全に関する指導法について学ぶ。（ICTを活用する） 第8回：災害面の安全に関する指導法について学ぶ。（ICTを活用する） 第9回：ブランコ・すべり台・鉄棒を使った運動遊びに関する指導法について学ぶ。 第10回：縄跳び・ボール遊びに関する指導法について学ぶ。 第11回：水遊び・散歩に関する指導法について学ぶ。 第12回：新聞紙を使った遊びに関する指導法について学ぶ。 第13回：表現遊びに関する指導法について学ぶ。 第14回：幼児の遊びと生活の場で動きを引き出す環境構成について学ぶ。 第15回：小学校との接続を考慮した指導法について，要点をまとめる。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかを評価する		
	レポート	20%	課題のテーマに沿い，幼児にあった指導法かを評価する		
	小テスト				
	定期試験	50%	到達目標について，知識・理解の到達度を評価する		
	その他				
	自由記載				
【授業外学修】 授業計画に応じて予習・復習し，1回の授業で4時間の学修を行う。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）			

授業科目名	人間関係の指導法	サブタイトル		授業番号	EE216
担当教員名	大橋 美佐子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めることを目指す。そのうえで、乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを表現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に着けることを目指す。

【到達目標】

領域「人間関係」のねらい及び内容を十分理解したうえで、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点が身に付けられるようにする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ
 第2回：教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方
 第3回：自立心を育む援助
 第4回：友だちとの遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方
 第5回：自他の気持ちの違いへ気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方
 第6回：きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助（情報機器を活用する）
 第7回：ルールのある遊びと援助
 第8回：個と集団の育ちを考える
 第9回：協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開を考える（情報機器を活用する）
 第10回：幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える（情報機器を活用する）
 第11回：幼小の交流活動を考える
 第12回：小学校以降の生活や学習で生かされる力（情報機器を活用する）
 第13回：地域の中の幼稚園（情報機器を活用する）
 第14回：多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもへ
 第15回：領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	受講態度や模擬保育等への積極的な態度により評価する。
	レポート	30%	毎時間のレポートについては、正しい文章で、自分の考え等が記述できているかを評価する。
	小テスト	20%	授業内容についての小テストを行い、理解度を評価する。
	定期試験		
	その他	30%	ロールプレイ、ディスカッション等への積極的参加、発表、提出物により評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

ノート作成は、後で見えて理解できるよう整理しておくこと。
 わからない事をそのままにせず、質問をしたり自宅学習をしっかりとすること。

【授業外学修】

週あたり4時間の予習・復習をすること。
 課題提出は必ずすること。

使用テキスト	自由記載	
--------	------	--

参考書	自由記載	幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 事例で学ぶ保育内容 領域人間関係 無藤隆監修 岩立京子編 萌文書林
【その他】 必要な場合は印刷物の配布をする。		
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 公立保育所保育士		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 保育所において実際に実施してきたことを中心に学生に教授する。		

授業科目名	環境の指導法	サブタイトル		授業番号	EE217
担当教員名	清水 憲志				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた、具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたて、子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。

【到達目標】

- ・環境についての知識や技術について理解し、修得することができる。
- ・具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたてることができる。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性
…環境が持つ意味を捉え、指導法を考える。

第2回：発達にふさわしい人的・物的環境
…発達を促すための環境を理解する。

第3回：植物や生き物に触れる中で学び
…どんぐりやまつぼっくりなど秋の自然物の理解を深めよう。

第4回：自然物を使った保育指導案の作成
…自然物を活用できる指導案を作成しよう。

第5回：自然物を使った保育の実践
…自然物を使って作品を作ろう。

第6回：乳児の保育環境について
…乳児の環境について知識を深めよう。

第7回：幼児の保育環境について
…幼児の環境について知識を深めよう。

第8回：秋の自然物に触れ、深めよう（どんぐりゴマづくり）
…ツリーやドングリゴマを作ろう。

第9回：自然環境と子どもの育ち
…自然について理解し、子どもの育ちに与える影響を理解する。

第10回：遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために
…生活を通して、文字や数量を理解しよう。

第11回：気になる子どもへの環境について
…子どもの特性を知り、生活しやすい環境を考えよう。

第12回：ドキュメンテーションの作品鑑賞会
…それぞれの作品を見て、感性を高めよう。

第13回：保護者に向けた情報発信のツールとしての活用
…様々なツールについて理解し、よりよい在り方を考えよう。

第14回：多国籍な子どもと共生する保育環境について
…外国のルーツを持つ子どもについて理解し、対応を考えよう。

第15回：幼児期の心を育てる保育環境について
…子どもの最善の利益を守るための保育について考えよう。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかを評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	50%	知識・理解の到達度を評価する。
	その他	30%	ドキュメンテーション作成
	自由記載	ドキュメンテーションの評価の観点 ・A4の紙2枚分（A3・1枚）に写真を用いて，記録が見られるものをつくろう。（1点） ・写真は活動の軌跡が見られるだけの枚数。（1点） ・裏に学籍番号・名前・テーマを書く（1点） ・写真についてのコメント・見出し・イラスト等があること（1点） ・1つの文章が短いこと。（。までが30文字）（1点） （※補足のイラストなどで，誰が見ても同じ理解ができるなら，説明文を入れる必要はありません。） ・子どもがみてわかりやすいこと，変化に気付けること（5点） ・自分なりの工夫がされていること（5点） ・誰が見ても変化（経過）していることが分かること（5点） ・見出し等に工夫がされていること（5点） ・前期でした「フォトブック」の経験が生かされていること（5点） ※採点后，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。	

【受講の心得】 ・日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 ・地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。 ・絵画や写真などを見たり，音楽を聞いたり，友人や家族と話したりしながら日々感性を磨くこと。		
【授業外学修】 1. 復習として，ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。		
使用テキスト	自由記載	適宜レジュメを配布します。
参考書	自由記載	保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 （平成30年3月 内閣府，文部科学省，厚生労働省）
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 公立保育園保育士，附属幼稚園教諭		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 実務経験を生かして環境の領域と他領域との関係を理解し，総合的に指導ができるよう具体的な活動を通して，ねらい，内容，指導案，保育実践など指導する。		

授業科目名	言葉の指導法	サブタイトル		授業番号	EE218
担当教員名	福澤 惇也				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。

【到達目標】

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：保育における「言葉」の意義
 第2回：子どもの言葉の発達過程（１）－発達の道筋－
 第3回：子どもの言葉の発達過程（２）－小学校への接続－
 第4回：言葉を育む環境構成と援助（１）－話したい、聞きたい意欲－
 第5回：言葉を育む環境構成と援助（２）－生活に必要な言葉の習得－
 第6回：言葉を育む環境構成と援助（３）－すれ違い等のもどかしさへの援助－
 第7回：言葉を豊かにする環境構成と援助－言葉による伝え合い－
 第8回：言葉を豊かにする環境構成と援助－文字などで伝える楽しさ－
 第9回：子どもの言葉を豊かにする教材（絵本・物語・紙芝居・ICTを活用して）
 第10回：言葉に対する感覚を豊かにする実践（情報機器を活用した言葉遊び）
 第11回：子どもの言葉を育む保育の実践（情報機器を活用した教材研究）
 第12回：子どもの言葉を育む保育の構想（指導案作成）
 第13回：子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育の実践）
 第14回：子どもの言葉を育む保育の評価と改善（振り返り）
 第15回：「言葉」をめぐる現代的課題と特別に配慮が必要な子どもに対する配慮

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。
	レポート	10%	講義の最後に与えられた課題について，様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については，次回の講義冒頭で解説を加える。
	小テスト		
	定期試験	80%	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。
 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。

【授業外学修】 テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！保育士エクササイズ11 子どもの文化演習ブック		松本峰雄ほか	ミネルヴァ書房	2, 750円	978-4-623-09277-2
	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）				
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。						

授業科目名	表現の指導法		サブタイトル		授業番号	EE219
担当教員名	松井 みさ					
対象学部・学科	保育学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について実践的に学び、指導計画を作成する能力を身に付ける。						
【到達目標】 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：領域「表現」のねらい及び内容について（1）音楽表現について 第2回：領域「表現」のねらい及び内容について（2）造形表現について 第3回：領域「表現」のねらい及び内容について（3）身体表現について 第4回：幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿について 第5回：小学校の教科内容との関連、情報機器及び教材の活用について 第6回：乳幼児の生活と表現について 第7回：情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（1）幼児自身のイメージについて 第8回：情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（2）意欲的に表現活動に取り組める工夫について 第9回：情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（3）幼児の興味や関心と表現について 第10回：1幼稚園・こども園での表現活動について 第11回：年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（1） 第12回：年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（2） 第13回：発表会を企画する（1）全体の流れを把握する 第14回：発表会を企画する（2）個々の表現活動を考える 第15回：表現活動の様々な取り組みについて						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業に積極的に参加し、グループワークにおいては意見や疑問を積極的に発言できるかを評価する。			
	レポート	50%	授業時に数回行う小レポートと、授業最終時のまとめのレポートを課す。授業内容を理解し、自分の考えを的確に表現できているかを評価する。小レポートはコメントをつけて次回授業時に返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	授業内で作成する指導案や企画などについて、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法が作成できているか評価する。			
	自由記載					
【授業外学修】 授業計画に応じて予習・復習し、1回の授業で4時間の学習を行う。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他必要があれば授業中に適宜資料を配布する				
【担当教員の実務経験の有無】 有						

【担当教員の実務経験】 ミュージックスクール講師
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無
【実務経験をいかした教育内容】 勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。

授業科目名	教育原理	サブタイトル		授業番号	EC101
担当教員名	土`田 豊 保X1				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		

【授業の概要】

教育の本質，幼児教育・保育の歴史，教育と児童福祉の基本理念，教育課程・全体的な計画，子どもの発達の特徴と遊び，特別支援教育の理念，幼児教育と保育の教育評価，保育者に求められる資質や能力など，幼児教育・保育についての基本的な考え方や内容について講義する。

【到達目標】

幼児教育・保育についての基本的な考え方や内容について知り，説明することができるようになる。
 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育の本質 -4つの教育の理念-
 第2回：幼児教育を築いた人々 -教育思想の歴史-
 第3回：わが国の幼児教育と保育の歴史
 第4回：子どもの発達と教育 -発達理論の歴史-
 第5回：教育と児童福祉の基本理念 -教育法規上の目的と目標-
 第6回：わが国と外国の幼児教育・保育の制度 -教育制度の理念と現代の教育課題-
 第7回：教育課程・全体的な計画
 第8回：子どもの発達の特徴と遊び -幼児教育の基本理念と指導の実際-
 第9回：幼児教育と保育の教育評価
 第10回：特別支援教育の理念 -一人ひとりに合った支援-
 第11回：生涯学習社会における幼児教育と保育の理念と課題
 第12回：子どもの人権と幼児教育・保育
 第13回：組織マネジメントと学校評価・保育所評価
 第14回：信頼される開かれた幼稚園・保育所づくり
 第15回：危機管理と安全教育

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	20%	各回の主要なポイントの理解度をレポートを課して評価する。レポートは，コメントを記入して返却し，学びのフィードバックとする。
	小テスト		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ，振り返りシートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として，テキストやノート，資料を読み直す。
 - 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。

授業科目名	保育者論	サブタイトル		授業番号	EC205
担当教員名	山本 房子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		

【授業の概要】

人格形成の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者の果たす役割は大きく、保育者の人間性や専門性の向上が求められる。そうした今日求められている保育者の役割や資質能力について学ぶとともに、学生が自らの課題を認識したうえで、保育者としての意欲や自覚を高めることを目標に講義する。

【到達目標】

- ・ 保育者に求められる役割や資質能力を理解できる。
- ・ 保育者の人間性や専門性について考察し、理解できる。
- ・ 保育者の連携・協働の必要性について理解できる。
- ・ 保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育者とはどのような人のことを言うのか「よい保育者」「目指したい保育者」について考える
第2回：保育者になるための免許・資格について法律や法令をもとに学ぶ
第3回：保育者の専門職倫理と職業倫理について学ぶ
第4回：保育者の専門性について、保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資質能力について考える
第5回：遊びを援助する保育者の役割について理解する
第6回：環境を通した保育における保育者の役割りについて理解する
第7回：保育者の子どもの発達を捉える視点について学ぶ
第8回：保育の質の向上において必要な視点について考える
第9回：保育における協働とはどのようなことかを考える
第10回：成長する保育者と同僚性について、同僚性の意味や重要性について学ぶ
第11回：家庭や地域と連携・支援する保育者の役割について学ぶ
第12回：保育者のキャリア形成について考える
第13回：現代の子どもたちの様子とその背景にある多様な要因について学ぶ
第14回：保育者の歴史や欧米・日本の保育や幼児教育について学ぶ
第15回：まとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	課題に対し，授業の要点を押さえたうえで，自分の考えを分かりやすく記入できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験	50%	到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

保育者を志す学生として自覚をもって授業に取り組むこと。

【授業外学修】

- ・ 予習として、授業にかかわる視点について教科書の指定された部分を読み、疑問点を明らかにする。
- ・ 復習として、授業を振り返り、ノートの記事、配布物資料の整理をする。
- ・ 発展学修として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育者論	西川ひろ子，中原大介編	溪水社	税込み1980円	978-4-86327-579-9
	自由記載				
参考書	自由記載	『倉橋惣三選集第1巻～4巻』，フレーベル館『保育者論－共生へのまなざし－』，岸井勇雄他監修，同文書院『最新保育講座 保育者論』，汐見稔幸・大豆生田啓友 著，ミネルヴァ書房			

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

公立幼稚園教諭

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が、現場での経験をもとに授業を行う。

授業科目名	教育心理学	サブタイトル		授業番号	ED201
担当教員名	平尾 太亮				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		

【授業の概要】

教育心理学の基本的な概念や理論への理解を深めるとともに、保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。

【到達目標】

- ・教育心理学の基本的な概念や理論を知り、教育心理学についての知識を習得する。
- ・心理学的な視点や考え方を、保育・教育の場面でいかせるようにする。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育心理学とは？

教育心理学の意義や目的について理解する。

第2回：子どもの発達

子どもの発達について、諸理論を参考に理解する。

第3回：大人の発達

大人の発達について、諸理論を参考に理解する。

第4回：学習とは？(1)

学習理論について理解する。

第5回：学習とは？(2)

動機づけについて理解する。

第6回：頭が良いとは？

知能について、諸理論を参考に理解する。

第7回：記憶力が良いとは？

記憶について、諸理論を参考に理解する。

第8回：性格とは？(1)

性格についていて、諸理論を参考に理解する。

第9回：性格とは？(2)

第10回：集団とは？

第11回：評価とアセスメント

第12回：子どもの心の問題(1)

第13回：子どもの心の問題(2)

第14回：カウンセリングとは？

第15回：まとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。
	レポート		
	小テスト	25%	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回）課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
	定期試験	55%	全講義終了後、教育心理学における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】 様々な気付きが得られるように、積極的な態度で授業に臨むこと。		
【授業外学修】 1. 授業内で学修した，教育心理学に関わる基礎理論を復習すること。 2. 授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。		
使用テキスト	自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。
参考書	自由記載	
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 スクールカウンセラー，医療型障害児入所施設職員		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 スクールカウンセラーでのカウンセリング業務を通して，子どもの性格や特性，集団に対してのアセスメントの方法や，子どもの心の問題，カウンセリングについて実例を交えながら教示する。 施設職員の経験では，生涯発達やライフサイクル，特別支援といった成長・発達に関する知見を伝える。		

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	5%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。
	レポート		
	小テスト	35%	講義内容の理解度、定着度を評価する。
	定期試験	35%	全講義終了後、障害児保育における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。
	その他	25%	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回）
	自由記載		

【受講の心得】

様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。

【授業外学修】

1. 授業内で学修した、障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。
2. 授業内で授業内容の小テストがあるため、その準備をすること。
3. 教科書のうち、次の講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにすること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	実践事例を通して、具体的ななかかわりを学ぶ保育現場における特別支援		松井 剛太・七木田 敦 編著	教育情報出版	2, 200	978-4-909378-49-1
	自由記載					
参考書	自由記載					

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の実務経験】

医療型障害児入所施設職員、スクールカウンセラー

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

施設職員の経験を活かし、各障がいに対して具体的な事例を交えながら教示する。
 カウンセリング経験から、様々な困難感を抱え、特別な支援を必要としている子どもや、特別な支援を必要とする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について、具体的な事例を通して考えることで、実践力を養う。

授業科目名	教育・保育課程論	サブタイトル		授業番号	EE201
担当教員名	保X1				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		

【授業の概要】

幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等について講義する。

【到達目標】

幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等を知り，説明することができるようになる。

なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育の基本と計画 -保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて-

第2回：保育の計画とカリキュラム・マネジメント

第3回：指導計画の種類と役割

第4回：保育における計画の考え方(1) -0, 1, 2歳児を中心に-

第5回：保育における計画の考え方(2) -3, 4, 5歳児を中心に-

第6回：小学校における計画との関係

第7回：保育における計画の変遷

第8回：教育課程・全体的な計画の編成

第9回：教育課程・全体的な計画の評価・改善 -保育士及び保育所の自己評価，幼稚園の自己評価との関連から-

第10回：理想の園の教育課程・全体的な計画の作成(1) -作成の留意点等の確認-

第11回：理想の園の教育課程・全体的な計画の作成(2) -具体的な目標等の設定-

第12回：理想の園の指導計画の作成(1) -作成の留意点等の確認-

第13回：理想の園の指導計画の作成(2) -具体的な目標・活動等の設定-

第14回：発表会・意見交換(1) -全体的な計画について-

第15回：発表会・意見交換(2) -指導計画について-

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	20%	課題について追究したことをまとめるとともに，自分はどのように考えるのかを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 課題について追究したことや自分の考えをまとめ，レポートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	就学前教育の計画を学ぶ		松村和子 他 2 名	ななみ書房	2 0 0 0 円	978-4-903355-74-0
	自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領				

授業科目名	教育・保育技術論	サブタイトル		授業番号	EE220
担当教員名	鳥越 垂矢				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

取り扱う内容は担当教員の専門性に基づいた造形表現活動を中心とするが、活動を考える方法、活動を考える方法、活動を評価する（ほめる）視点や方法のほか、保育における直接的、間接的コミュニケーションなどについて講義する。また、1年次の学習に基づいた保育内容のドキュメンテーションづくりやその発表などを通じ、主体的で対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。

【到達目標】

子どもの特性を考慮して、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育内容の計画や、その実施を目指す基礎的な方法を獲得する。また、ICTを活用して保育内容のドキュメンテーションを中心とした保育情報の作成と提供ができるようになる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

ドキュメンテーションの内容は、1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを活用する。
ドキュメンテーションはパワーポイント等のデジタルデータとする。

第1回：授業ガイダンス／エビデンスのある教育—5Cの力・10の姿・STEAM教育

保育内容の理解と方法A/Bの演習内容のとらえなおし

第2回：保育内容を考える方法(1)道具と体，行為と方法，素材との関係性から保育内容を考える「分ける・切る」

第3回：保育内容を考える法(2)道具と体，行為と方法，素材との関係性から保育内容を考える「くっつける」

第4回：保育内容を考える方法(3道具と体，行為と方法，素材との関係性から保育内容を考える「塗る・描く」

第5回：教育・保育の技術(1)子どもの思考や意欲，行動を引き出す保育の仕掛け

動機付けになる情報とそのタイミング：保育環境・環境構成・導入・展開・評価

第6回：教育・保育の技術(2)子どもの思考や意欲，行動を支える保育の仕掛け+SDGs

様々な子どもたちに対応したプロセス／スモールステップ

結果に多様性のある活動

第7回：教育・保育の技術(3)伝わる言葉・伝わらない言葉／保育行為のオノマトペ

第8回：教育・保育の技術(4)褒める 何をほめる？なぜ、ほめる？褒める（評価）とねらいの関係

第9回：保育現場におけるICTの活用－研修と保育のドキュメンテーション

第10回：保育のドキュメンテーション作成に向けて－グループ作りと内容の選定

第11回：ドキュメンテーションの作成－選定した内容を5Cの力・10の姿・STEAM教育の観点で捉えなおす

第12回：ドキュメンテーションの作成－パワーポイントによる作成

第13回：ドキュメンテーションの作成・プレゼンテーションの練習

第14回：プレゼンテーションと内容の検討 前半

第15回：プレゼンテーションと内容の検討 後半

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	1年次の学習内容を振り返りつつ、活動に主体的に取り組んでいる様子が見られるか、また、発言については、発言回数とともに、発言内容に他者の意見を反映したり、これまでの学習内容や既存知識、記憶、経験と結びつけた意見が述べられたりしている点を評価する。
	レポート	0%	
	小テスト	0%	
	定期試験	0%	
	その他	70%	ドキュメンテーションの内容については、SDGsの普遍的目標とSTEAM教育、5Cの力、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）との具体的な関連性があることを加点評価する。また、Jamboardやフォーム等の回答内容については、自分の意見が明確に述べられている点を加点評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。

ドキュメンテーションに関する内容の時には、1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを持参すること。

【授業外学修】

保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には、時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。1年次の授業科目の学習記録を読み込むこと。以上のことを時間外学修として毎週4時間程度行うこと。

使用テキスト	自由記載	ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版（1年次の授業で購入済み）
参考書	自由記載	新版 遊びの指導 入・幼児編（1年次の授業で購入済み） 幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社 保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社

【備考】

令和4年度改訂

【担当教員の実務経験の有無】

有

【担当教員の实務経験】

岡山県教育センター及び、幼稚園・保育園における研修講師

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

保育者研修等で、大人にも子どもにも備わっている非認知能力である「5C」の力、すなわち「感知する」Catch、「創造する」Create、「コントロールする」Control、「コミュニケーションする」Communicate、「理解する」Comprehendを意識した保育をすることにより、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に自然とつながっていくことを講演している。実際にその視点を活用することにより、子どもの活動が豊かに展開し、噛みつきやひっかきが減少した保育園があるので、エビデンスのある教育を行うことを目的として、そうした成果や園が作成したドキュメンテーションを学生に紹介する。

授業科目名	教育相談	サブタイトル		授業番号	ED207
担当教員名	保X1				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 教育相談・カウンセリングの理論と方法，基本的な応答の仕方について演習を通して講義する。					
【到達目標】 子どもの発達への援助，保護者への子育て支援の重要性やカウンセリング・マインドの大切さを理解し，基本的な応答の仕方を身につけることができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：教育相談・カウンセリングとは何か 第2回：子どもの発達への援助(1) - 0～2歳の情緒の発達- 第3回：子どもの発達への援助(2) - 3～6歳の情緒の発達- 第4回：子ども理解の意味と方法 第5回：カウンセリングの理論と方法 第6回：カウンセリング・マインド 第7回：園における教育相談の意義と活用 第8回：登園拒否の理解と指導 第9回：社会性の発達とそのつまずきへの理解と対応 第10回：遊びの意義と教育相談 第11回：発達障害の理解と支援 第12回：子育て支援のあり方 第13回：園における保護者への支援 第14回：地域社会・関係機関との連携 第15回：保育者のメンタルヘルス					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	小テスト				
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ，振り返りシートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。					
【授業外学修】 1 予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。					

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	親・保育者のための子育て・保育カウンセリングワークブック		清水勇・阿部裕子	学事出版	2000円＋税	4-7619-1181-2
	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				

授業科目名	教育実習指導	サブタイトル		授業番号	EF310
担当教員名	山本 房子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		

【授業の概要】

現場で行う幼稚園教育実習を有意義かつ充実した実習とするため、事前に学習への意欲を高め、これまでに学修した知識・技術を現場での指導に活用できる実践力について説明する。実習終了後は自分の実習の振り返りやグループ討議、反省会等を行い、幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする。

【到達目標】

実習前には実習生としての態度や心構え、指導案や日誌の書き方、教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに、実習での学習の成果のまとめと発表をし、自己課題を明確にできる。
以上のことを目的とする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育実習の目標と意義を理解し、教育実習に向けての計画と準備を行う
第2回：幼稚園教育、教師の役割、子どもの実態について理解する
第3回：実習に対する課題を作成する
第4回：園長先生・先輩による事前指導（先輩講演）を受ける
第5回：教育実習日誌の書き方を知る
第6回：部分指導案の書き方を知り、絵本の読み聞かせ・昼食場面の指導案を作成する
第7回：全日指導案の書き方を知る
第8回：特別に支援を要する幼児への指導について学ぶ
第9回：実習生の一日について理解する
第10回：幼稚園教育実習直前オリエンテーションを受ける
第11回：幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営について理解する
第12回：幼稚園教諭の役割と援助について理解する
第13回：教育実習のまとめI 反省及び自己評価を行う
第14回：教育実習のまとめII 実習での学びや課題をもとにテーマレポートを作成する
第15回：教育実習のまとめIII 実習反省会を行う

【授業計画 備考2】

注) 第2～10回の授業のうち、時間の関係で授業時間以外の時間で授業をする回もある。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、協力する態度、授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。
	レポート	80%	実習での学びに関する課題を、決められた様式に従い分かりやすく述べていること。提出期限を守っていること。実習後面談の中でレポートの評価等についてはフィードバックする
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載	報告書やレポート等の評価を80%、授業態度を80%20%の割合で評価する。	

【受講の心得】

実習に取り組むに当たっての課題を決定し、その準備をする。
提出物が多いので、提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。

【授業外学修】 教科書の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。 授業後は教科書や配布された資料をよく読み、知識を整理すること。 弾きうたい、幼児への関わり方や指導案作成等、保育技術の向上に努力すること。 保育教材等、実習に必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	詳説 幼稚園教育実習		森元 真紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	2090円	978-4-86186-761-3
	自由記載	『指導案集』（担当者作成）				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼稚園教育要領解説		文部科学省	フレーベル館	264円	978-4577814475
	自由記載					
【備考】 令和4年度改訂						
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 幼稚園教諭						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 幼稚園教諭として勤務経験や実習生を指導した経験を活かし、教育実習に向けての心構えや準備、日誌の書き方等について実践的な指導を行う。						

授業科目名	教育実習	サブタイトル		授業番号	EF309
担当教員名	山本 房子 福澤 惇也				
対象学部・学科	保育学科	単位数	4単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
【授業の概要】 幼稚園教育の現場で4週間実習経験する。					
【到達目標】 幼児とその教育を正しく理解する力、幼児を受容しかつ指導する力、事務的な事柄を処理する能力等を身につける。 優しさや思いやりある保育者の姿に触れ、信頼される保育者に必要な豊かな人間性について知り、実践出来る力を身に付ける。 。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】 観察・参加・指導実習（部分・連続・1日実習）とおおよそ3段階で進められる。					
第1週 観察実習 ・ 幼稚園教育実践の場を実際に観察し、幼児の実態や指導に対する理解を深める。 ・ 幼稚園教育環境のおおよそを理解する。 第2週 参加実習 ・ 教育実習担当教諭の計画に基づき、保育指導の展開と方法を体験的に学ぶ。 ・ 幼児に親しみ、その接し方に慣れる。 第3～4週 指導実習 ・ 部分実習 幼児の生活全体を把握し、1日のうちの1部を担当し、幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自らが立案した指導計画により指導を行い、保育指導の基礎的実践を経験する。一人一人の幼児の行動観察をすることにより幼児理解を深める。 ・ 連続実習 ・ 1日実習 最終段階の実習である。幼児の生活全体を把握し、1日の保育を実践する。 部分実習と同様、幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自ら立案した指導計画により指導を行い保育指導の応用的実践を経験する。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	教育実習園からの評価（大学が示した評価項目、実習への意欲・責任感・研究的態度・協調性・指導計画立案・指導技術・事務処理）に基づいて評価する。		
	レポート	30%	教育実習園での実習日誌・指導案等の提出物を与えられた様式に従って、丁寧に記述していること。提出期限を守っていること。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 体調管理に努め実習の課題をもち、積極的に実習に参加すること。社会人、保育者としての生活態度を自覚すること。実習の心得を守って行動すること。					
【授業外学修】 1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の動きを日誌に記入する。 2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入する。 3. 指導案等の実習指導計画を作成する。 以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。					

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	詳説 幼稚園教育実習		森元 真紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	2090円	978-4-86186-761-3
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼稚園教育要領解説		文部科学省	フレーベル館	264円	978-4577814475
	自由記載					
【備考】 令和4年度改訂						
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 公立幼稚園教諭						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有						
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】 幼稚園教諭						
【実務経験をいかした教育内容】 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が，実習の巡回指導を行う。						

授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）	サブタイトル		授業番号	EF302
担当教員名	大橋 美佐子 福澤 惇也 保X1				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 2年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して、学生が修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに、不足している知識・技能を補完・向上させ、保育・教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。					
【到達目標】 1 保育者としての使命感や責任感をもつことができる。 2 保育者に必要な専門的知識をもつことができる。 3 保育を取り巻く環境の変化について理解し、実践的に保育に生かすことができる。 4 仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し、実行できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する ※（担当担当：原田 眞澄 大橋 美佐子 福澤惇也 ） （履修カルテ自己評価表を基に自分に欠けていることの確認） 第2回：現代の乳幼児保育の課題「災害時の対応」(1) ※（担当担当：原田眞澄） 第3回：現代の乳幼児保育の課題「災害時の対応」(2) ※（担当担当：原田眞澄） 第4回：現代の乳幼児保育の課題「災害時の対応」(3) ※（担当担当：原田眞澄） 第5回：現代の乳幼児保育の課題「災害時の対応」(4) ※（担当担当：原田眞澄） 第6回：現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(1) ※（担当担当：大橋 美佐子） 第7回：現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(2) ※（担当担当：大橋 美佐子） 第8回：現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(3) ※（担当担当：大橋美佐子） 第9回：現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(4) ※（担当担当：大橋美佐子） 第10回：地域連携のあり方を考える(1) ※（担当担当：福澤惇也） 第11回：地域連携のあり方を考える(2) ※（担当担当：福澤惇也） 第12回：保護者支援のあり方を考える(1) ※（担当担当：福澤惇也） 第13回：保護者支援のあり方を考える(2) ※（担当担当：福澤惇也） 第14回：小学校への連携について考える(1) ※（担当担当：原田 眞澄 大橋 美佐子 福澤惇也 ） 第15回：小学校への連携について考える(2) 今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する ※（担当担当：原田 眞澄 大橋 美佐子 福澤惇也 ） （履修カルテ自己評価表を基に自分に卒業後の自分の課題の確認）					
【授業計画 備考2】 実践演習全体の反省・評価・第1回目にもった課題の達成度を振り返る 担当：原田 眞澄 大橋 美佐子 福澤惇也					

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	グループ討議には意欲的に参加し，友人と協力しようとする態度で授業に参加している。
	レポート	50%	授業ごとに学びをまとめ，時間内に提出できる。レポートは担当教員が読み返却する。15回目の授業で，すべての授業の資料とレポートを専用のファイルに綴じて提出できる。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		
	【受講の心得】 授業は演習形式で行われるので，学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し，保育士・幼稚園教諭として求められる諸資質について，グループ討論・ロールプレイ等を通して，自ら主体的に考えていくようにする。受講前には，履習カルテ(2)を必ず記入しておくこと。		
【授業外学修】 授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 授業後は配布された資料をよく読み，知識を整理すること。 演習について必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。			
使用テキスト	自由記載	適宜，参考資料をプリントし，配布する。	
参考書	自由記載	『幼稚園教育要領』，文部科学省，平成29年度版 『保育所保育指針』，厚生労働省，平成29年度版	
【担当教員の実務経験の有無】 有			
【担当教員の実務経験】 保育士（大橋美佐子）幼稚園教諭（福澤惇哉）			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有			
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】 小学校教諭			
【実務経験をいかした教育内容】 保育所・幼稚園と小学校の連携に関して，学生の疑問に答え指導する。			

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	各講義における学修目的に関する基礎知識及び基本原理の理解、及び、意欲・関心を持ち、講義に積極的に参加する態度を評価する。				
	レポート	30%	1回実施。基本原理、基礎知識の理解及び異なる意見の存在に配慮しつつ法律を使った問題解決の考え方ができているかを評価する。レポートにはコメント付して返却する。				
	小テスト						
	定期試験	40%	記述式試験を実施。基本原理及び基礎知識の理解及びこれらを活用して身近な憲法問題に対して主体的かつ論理的に結論を導くことができているかを評価する。				
	その他						
	自由記載						
【受講の心得】 1 講義は各章（ほぼ毎回）のグループワークを行いながら進めていくので、各自はテキスト・講義資料を予習しておくこと。 2 全体を通じて1回、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。 3 中間に1回中間レポートの課題（第7回頃レポート作成要項発表）がある。							
【授業外学修】 1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、ノートに整理して、期末テストに備える。また、発展的学習として選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループワークに参加し、協力して必要事項を調査するとともに、課題に関してそれぞれの意見を交換し、グループ報告書にまとめる共同作業を行う。 3 中間レポート：自身の属するグループや他のグループのグループワーク報告書や質疑を整理し、疑問点を調査する。これまでの学修の結果を踏まえて課題を選択し、自分の意見を練り、レポートにまとめる。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。							
使用テキスト	書名		著者・編集者		出版社	定価	ISBN
	憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える		中富公一		法律文化社	2400円＋税	978-4-589-04140-1
	自由記載						
参考書	書名		著者・編集者		出版社	定価	ISBN
	基本判例 1 憲法（第4版）		右崎正博・浦田一郎編		法学書院	2500 円＋税	978-4-587-52413-5
	自由記載	授業において随時紹介する。					
【担当教員の実務経験の有無】 有							
【担当教員の実務経験】 県教育委員会、県（人権・同和政策課）							
【実務経験をいかした教育内容】 いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。							

授業科目名	体育講義	サブタイトル	(子どものからだと心の健康)	授業番号	EA207
担当教員名	土`田 豊				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】
知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また、セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し、対処法についても学びます。

【到達目標】
人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している習慣や保育・教育の現場で実践されている事柄の意味について知ることを目的とする。
人間のからだと心の仕組みについて理解し、教育の現場に出た際、子どもたちのからだと心の異変に気づき、適切に対処できる力を養うことを目的とする。
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。

【授業計画】	
第1回：「体力」について考える	
第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える	
第3回：「自律神経」のはたらきについて考える	
第4回：「土踏まず」のはたらきについて考える	
第5回：「背筋力」のはたらきについて考える	
第6回：「健康診断」で分かることについて考える	
第7回：「前頭葉」のはたらきについて考える	
第8回：「子どものからだと心を元気にする方法」について考える	
第9回：	
第10回：	
第11回：	
第12回：	
第13回：	
第14回：	
第15回：	

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況を評価する。毎回配布するワークシートに授業に沿った記録がされていたり、発表できたりすることを加点対象とする。
	レポート	40%	事前学習や授業で学んだことを踏まえ、自分自身の問題として具体的に述べていること。授業内容を理解し、具体的な事例として捉えられている度合いに応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで、学びのフィードバックとする。
	小テスト	30%	全8回の授業内容を踏まえ、子どものからだと心の問題にどう対応していくかということについてのレポートを作成する。自分の考えが具体的に記述されている度合いに応じて、得点化する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【授業外学修】 1. 「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、情報を収集すること。 2. 各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 3. 授業で学んだことを日常生活で実践したり、保育現場で見聞きした子どもの状態も想起しながら学習内容を深く理解すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。		
使用テキスト	自由記載	その都度プリントを準備する。
参考書	自由記載	
【担当教員の実務経験の有無】 有		
【担当教員の実務経験】 公立小学校教諭		
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無		
【実務経験をいかした教育内容】 学校現場や自然体験施設での経験を生かして、体の仕組みや健康を維持する方法などについて指導する。		

授業科目名	体育実技	サブタイトル	(適切な運動実践)	授業番号	EA208
担当教員名	土`田 豊				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	実技		

【授業の概要】

各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。

【到達目標】

バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し、チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：体力テスト

グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。

第2回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解）

基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。

第3回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）

基本技術を反復しつつ、実際にゲームを体験します。

第4回：バレーボールIII（ゲームの展開）

チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。

第5回：バレーボールIV（ゲームの展開）

チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。

第6回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解）

基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。

第7回：バドミントンII（ゲームの展開）

チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。

第8回：バドミントンIII（ゲームの展開）

チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。

第9回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）

基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。

第10回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）

基本技術を反復しつつ、実際にゲームを体験します。

第11回：バスケットボールIII（ゲームの展開）

チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。

第12回：バスケットボールIV（ゲームの展開）

チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。

第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解）

基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。

第14回：卓球II（ゲームの展開）

チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。

第15回：卓球III（ゲームの展開）

チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し，練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また，メンバーに声を掛けたり，援助などができておれば加点対象とする。
	レポート	20%	各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し，コメント入力後返却する。
	小テスト	30%	バレーボールとバスケットボールにおいては，トス，サーブ，シュートの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		
【受講の心得】 運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。			
【授業外学修】 1．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。 2．各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。			
使用テキスト	自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）	
参考書	自由記載		
【担当教員の実務経験の有無】 有			
【担当教員の実務経験】 公立小学校教諭			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無			
【実務経験をいかした教育内容】 学校現場での経験を生かして，日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。			

授業科目名	英語A	サブタイトル	(保育の英語)	授業番号	EA211
担当教員名	高坂 勝彦				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		

【授業の概要】

グローバル人材を育成するため、多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での1年間を通して、使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。

【到達目標】

外国人保護者や児童を支援できる人になれるよう、基礎的な語彙・文法事項を理解し、その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき、基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：新学期
 第2回：登園・家族
 第3回：欠席の連絡
 第4回：外あそび・遊具
 第5回：園庭・けんか
 第6回：昼食・献立表
 第7回：着替え・洋服について
 第8回：トイレ・昼寝 / 前半のまとめ
 第9回：病気・身体の名称
 第10回：緊急の連絡
 第11回：ハロウィーンについて
 第12回：行事の案内状
 第13回：運動会・動作
 第14回：散歩・地図
 第15回：お絵かき・お手紙書き/ 科目授業全体の振り返り

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。
	小テスト	50%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	0%	
	その他	0%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書本文に目を通し分からない単語をチェックしておく。
2. 復習として、学習した単語や熟語を暗記し、英語表現を音読するなどして身につける。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新・保育の英語		森田和子	三修社	1, 900円＋税	978-4-384-33399-2
	自由記載					
参考書	自由記載	辞書を毎時間携帯すること。電子辞書でも構わない。ただし、授業中に携帯電話の辞書機能の使用は認めない。				
【その他】 なし						
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 公立高等学校英語科教諭・支援学校教諭(高坂勝彦)						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 学校現場での経験を生かして、英語全般を教養として楽しく教える。また、実務経験を生かし、「保育の英語」を実践的に教える。(高坂勝彦)						

授業科目名	情報処理概論	サブタイトル	(コンピュータの基礎知識)	授業番号	EA206
担当教員名	赤木 竜也				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。なお，本授業は教職必修科目である。					
【到達目標】 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈技能〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：情報処理とコンピュータの関わり 第2回：コンピュータの基礎知識 第3回：ワードプロセッサの基本（文書の作成） 第4回：ワードプロセッサの活用（編集機能） 第5回：ワードプロセッサの活用（表・図形機能） 第6回：表計算ソフトの基本（基本的な表の作成1） 第7回：表計算ソフトの基本（書式設定） 第8回：表計算ソフトの基本（基本的なグラフの作成） 第9回：表計算ソフトの基本（基本的な表の作成2） 第10回：表計算ソフトの応用（基本的な関数） 第11回：表計算ソフトの応用（応用的な関数） 第12回：表計算ソフトの応用（応用的な関数） 第13回：表計算ソフトの応用（データベース機能） 第14回：アプリ間のデータ活用 第15回：総合演習・まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する。		
	レポート				
	小テスト	10%	授業中出題する演習問題について評価する。		
	定期試験	60%	習熟達成度を評価する。		
	その他	10%	授業中出題する演習問題について評価する。		
	自由記載				
【受講の心得】 コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。					
【授業外学修】 授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。					

	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	30時間でマスターWord&Excel2019 (Windows10対応)		実教出版企画開発部	実教出版	1045	978-4-407-34838-5
	自由記載					
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）等を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。						